

CONTENTS

秋季企画展・記念講演会 天を測り地を量る	2・3
冬季企画展 美作地域の華岡門人	4
津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム	5
NEWS FILE・友の会史跡見学会	6
資料館展示品から	7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

洋学 資料館

No. 23

February, 2019

龍頭山

岸田吟香は、1833 (天保4) 年に久米北條郡中坩^{なほは かつに}和谷村 (現在の美咲町^{みさき}柝原) に生まれました。12歳で坪井下村 (現在の津山市坪井下) の大庄屋・安藤善一の元へ学僕として寄宿。2年の研鑽ののち、津山城下へ出て漢学や剣術を学びました。吟香が津山で過ごした間、私塾を開いていたのが、ここ龍頭山善應寺^{りゅうづさんぜんおう}です。お寺には今も、吟香にまつわる逸話が伝えられています。

吟香は19歳になると、志高く江戸へ旅立ちました。そののち、和英辞書の編纂補助や日本初の液体目薬「精録水^{せいりくすい}」の販売など、多彩な活躍をしていくことになります。

(津山市大篠) 写真・下山純正 氏



津山洋学資料館

TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



講演中の鈴木一義先生



秋季企画展・記念講演会 天を測り 地を量る



■会期：平成30年10月6日（土）～11月18日（日）

2018年は、初めて実測による日本地図を作成し、測量史に大きな足跡を残した伊能忠敬の没後200年に当たります。これを記念して、企画展「天を測り地を量る」を開催し、江戸時代における測量術と天文学の歴史を紹介しました。

「測量」という言葉は、「測天量地（天を測り、地を量る）」という中国の言葉に由来しているとされます。江戸時代には、土地をはかる測量術は「量地」「町見」「規矩」などとも呼ばれ、「測量」の言葉は、天をはかる天文学においても用いられました。測量術と天文学は、どちらも古代に中国や朝鮮半島から日本へ伝来しました。江戸時代になると、さらに西洋からもたらされた知識や技術を取り入れ、相互に影響を与えながら大きく発展していくことになります。

本展では、国立科学博物館産業技術史資料情報センター長の鈴木一義先生に全面的なご協力をいただき、星図や望遠鏡、測量器具など約90点を展示しました。

精巧に作られた器具に見入ったり、展示室の壁に貼った「伊能大図（米国）彩色図」（国土地理院所蔵）の津山周辺部分のパネルの前で、描かれた村々を指差しながら、測量隊に思いを馳せたりする姿も見られ、会期中は洋学に関心のある方だけでなく、伊能忠敬の足跡を調査されている方など、多くの人にお越しいただくことができました。

来館者からは、「伊能忠敬が津山にも来ていたことを初めて知った」「当時の技術の発展が追えて、とても興味深かった」などの声が寄せられました。

また、企画展の関連行事として、10月7日（日）には鈴木一義先生による記念講演会も開催しました。

先生は、日本の天文暦学の発展について、西洋の科学技術史や時代背景を交えながらお話しになりました。和算や測量技術についても解説されたほか、茶運び人形の機関の復元など、からくりから精密工学にまでお話を掘り込まれていました。

当日は穏やかな陽気となり、たくさんの方が聴講にいられました。先生はユーモアを交えて分かりやすくお話しくださり、会場からは時折笑い声も聞かれて、和やかな雰囲気にも包まれていました。終了後は活発に質問も出ていました。

最後になりましたが、本展および講演会の開催にあたり、貴重な資料をご出展いただきました所蔵者の皆さまをはじめ、ご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。



津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラムを開催しました。これは、公益財団法人上廣倫理財団の支援を受けて平成23年から毎年開催しているもので、今回は江戸時代の医療倫理について、華岡青洲やその弟子たちの活動を通じて検討する講演とシンポジウムを行いました。

最初に岩下哲典先生が登壇され、時代背景やいわゆる「鎖国」下での病気の状況、その中で医師たちがどのような思想をもって治療にあたったかを、尾張藩医の事例も加えてお話しされました。

続いて梶谷光弘先生が、青洲が麻酔薬を開発した経緯や弟子たちの活動について、最新の研究成果を交えてお話しされました。青洲の開いた医塾は、青洲没後も子孫に引き継がれ、明治に至るまでおよそ2200人もが学んだ、江戸時代最大の医塾だったそうです。

最後に下山純正先生が、門人録の記述をもとに、長年の追跡調査で明らかにしてきた、美作出身の華岡門人たちの史跡や関係資料について、発見時のエピソードを交えながら紹介されました。

シンポジウムでは、3人の先生が参加者の質問に答える形で、講演の内容をさらに掘り下げました。当日は雪の心配される寒い日でしたが、たくさんの方が来場され、時には身を乗り出すようにして、熱心にお話に聞き入っていました。

津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム

講演 「病とむきあう」藩医たち―その時代・環境・思想―
東洋大学文学部教授 岩下 哲典 先生

「華岡青洲が開発した乳がん手術と近代医学」
(公財) いつも財団事務局次長 梶谷 光弘 先生

「美作における華岡門人の足跡に思う」
津山洋学資料館元館長 下山 純正 先生

シンポジウム
主催：公益財団法人上廣倫理財団・津山市教育委員会 後援：文化庁・岡山県教育委員会



冬季企画展 美作地域の華岡門人

■会期：平成30年12月1日(土)
～平成31年2月24日(日)



(山田家資料)

紀州(現在の和歌山県)の医師華岡青洲は、1804(文化元)年、世界で初めての、全身麻酔による乳がん摘出手術を成功させました。青洲のもとには、その技術を学ぼうと、全国からたくさんの方々が集まりました。美作地域からも、門人録に記録が残っているだけで37人の医師が、青洲やその後裔たちが開いた医塾(春林軒・合水堂)に入門しています。

代々津山藩医を勤めた久原家からは、玄順、宗哲、洪哉の3人が入門しました。最後の藩医となった洪哉は、1870(明治3)年、藩主松平慶倫の夫人が乳がんになった際、摘出手術を成功させ、そのお礼として打掛を拝領しています。

美甘(真庭市)の横山廉造は、合水堂で学んだのち帰郷して開業。恩師である山田方谷の治療にもあたりました。海田(美作市)の山田純造は、備前の華岡門人難波抱節に師事したのち、合水堂に入門。帰郷後、医院仙巖堂で多くの患者を治療し、華岡流の医学書や医療器具をたくさん残しています。上福田(真庭市)出身の芳村杏齋は、合水堂で学んだのち長崎へも遊学。津山藩医に登用されました。

本展では、こうした華岡流の技術を学び、地域医療に尽くした医師たち20人について、資料や史跡パネルで紹介しました。観覧された方からは、「自分の地元で、昔こういった医師たちが努力していたことを初めて知った」「医療の向上に尽くした医師たちがすごいと思った」などの声が寄せられました。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、お力添えを賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

NEWS FILE
株式会社明治屋から指定寄付をいただきました

株式会社明治屋を創業した磯野計、二代目社長となった米井源治郎は津山出身で、計は眞作秋坪や麟祥、源治郎は仁木永祐から教えを受け、長じて商業界で活躍しました。

一昨年の津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラムは、磯野計の生誕160年を記念し、「明治屋創業者磯野計とその時代」をテーマに開催しました。当日は明治屋の山川広常務も参加され、その時



のお話をきっかけとして、この度明治屋から資料館へ指定寄付をいただきました。

11月29日(木)には米井元一会長、山本宜彦人事総務部長が来津に感謝状を手渡しました。お二人は贈呈式の後に、資料館を見学されました。

いただいたご寄付は、歴史資料の購入費に充てて、展示や調査研究などに有効に活用していきます。

オムニバス講演会開催

1月27日(日)、8回目となるオムニバス講演会を開催しました。今回は秋季企画展「天を測り地を量る」に関連し、「測量隊津山を歩く」をテーマにしました。

1813(文化10)年に行われた伊能忠敬の津山測量について、職員3人が「天文と測量と洋学の150年」(田中)、「城下の測量と藩の対応」(近都)、「地図に地図を重ねたら」(仁木)の個別テーマで報告しました。

会動
第31回友の会史跡見学会
大篠・下高倉の史跡を訪ねて

11月18日(日)、友の会の史跡見学会を実施しました。今回は初心に帰って、津山市に残る洋学関係の史跡を中心に巡りました。

最初に訪れたのは天台宗龍頭山善應寺です。善應寺は、かつて岸田吟香が私塾を開き、集まった近所の青年たちに「四書五経や『日本外史』」などを教えた場所です。ここでは那波さんに吟香にまつわる逸話をお話いただきました。

それから、紅葉を見ながら徒歩で大庄屋安黒家の屋敷跡まで移動しました。屋敷跡は竹藪で覆われていましたが、現存する石垣や水路から往時の繁栄が偲ばれました。その後、石を積み上げた磐座風の安黒家墓所にもお参りしました。

次に米井源治郎の生家を訪問しました。源治郎は明治屋二代目社長で、麒麟麦酒を創業した人です。ここでは米井家ご後裔の米井澄近さんとご親戚の米井郁人さんに源治郎の業績などをお話いただきました。ずらりと並べられた貴重



米井源治郎生家で記念撮影

な史料の数々に一同感激し、熱心に説明を聞いていました。

美作の丘では風車が造られた経緯を下山顧問に語っていただき、昼食を楽しみました。また、予定にはありませんでしたが、高野山西の高橋家墓所にもお参りしました。高橋家は眞作阮甫の母清子の妹ウタが嫁いだ家で、阮甫は叔母を訪ねては食事を振る舞ってもらっていたそうです。

当日は爽やかな秋晴れとなり、充実した見学会となりました。各見学地でお世話になりました皆さまに心からお礼申し上げます。

資料館展示品から

乳がん摘出の様子を描く

「乳巖図全」



備前津高郡の患者。
「文化乙亥(1815年)十月三日割取 難波立原図」とある。
(註1) 上廣歴史文化フォーラム梶谷光弘先生のご講演から

今年度の冬季企画展と上廣歴史文化フォーラムは華岡青洲をテーマに開催しました。青洲の名を世に広めたのは、麻酔薬「麻沸散(通仙散)」を用いての乳がん摘出手術でした。華岡家で行われた乳がん手術の記録「乳巖姓名録」には、1804(文化元)年から1848(嘉永元)年11月までに155名の患者の名前が記されています。

1846(弘化3)年に華岡分塾合水堂に入門した津山の久原宗哲は、父に宛てた手紙に「先生家病人多二御座候、今日も乳岩痘治有之」と書いていて、塾で乳がん治療が行われていた様子を伝えています。

写真の資料「乳巖図全」は、海田(現在の美作市)の医家山田家に伝来したものです。山田家の人々は、備前の華岡門人難波抱節(立原)やその息子の経直に師事し、中でも山田純造は抱節に学んだのち、大坂へ出て合水堂へ入塾しました。

「乳巖図全」には患者の情報と摘出した腫瘍の図が描かれていて、最初は「和州宇智郡五條駅藍屋利兵衛母勘」と、青洲の最初の手術を受けた女性の図があります。勘と、続いて描かれた8名は「乳巖姓名録」にも名前があるため、ここまでの部分は華岡塾の手術と分かります。それ以降の9名

は、最初に「難波立原図」と書かれていて、しかもいずれも備前、備中、美作の患者であることから、難波抱節が行った手術と考えられます。抱節は1814(文化11)年に合水堂、続いて紀州の本塾春林軒へ入塾し、青洲から直接学んだ高弟でした。

華岡流を学んだ医師は2200人を越えますが、そのうち実際に麻酔薬を用いて手術を行なったことが史料で確認できるのは、わずか18人だけなのだそう。抱節はその中の一人。本資料は、抱節の具体的な手術の様子を伝える、貴重なものなのです。

文：学芸員 田中美穂

INFORMATION

平成31年度の催し物(予定)

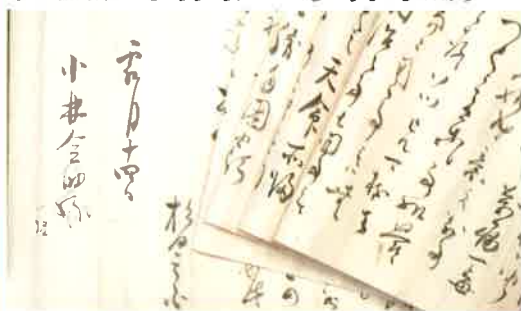
企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「生涯250年記念 杉田玄白門人 小林令助」 21 第74回文化講演会「真珠王 御木本幸吉と箕作佳吉」 講師：ミキモト真珠島 真珠博物館長 松月清郎 先生 21 友の会総会 (休館日：15・22日) 	3/9~ 生涯250年記念 杉田玄白門人 小林令助 ~6/23
5月	(休館日：7・8・13・20・27日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会研修バス旅行 (休館日：3・10・17・24日) 	7/6~ 箕作家の歴史研究(仮) 西洋史はどう伝わったか ~9/16
7月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「箕作家の歴史研究(仮)」 27 親子でヒンデローペンの作品づくり 28 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：1・8・16・17・22・29日) 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の化学書からの再現実験教室 自分だけの「解体新書」を作ろう (休館日：5・13・14・19・26日) 	10/5~ 武雄の蘭学 ~11/4
9月	<ul style="list-style-type: none"> 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム (休館日：2・9・17・18・24・25・30日) 	11/23~ 津山藩の英学事始 ~2/16
10月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「武雄の蘭学」 (休館日：7・15・16・21・23・28日) 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「津山藩の英学事始」 (休館日：5・6・11・18・25・26日) 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会史跡見学会 (休館日：2・9・16・23・29 ~ 31日) 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> 26 学芸員による研究報告会 (休館日：1 ~ 3・6・14・15・20・27日) 	
2月	(休館日：3・10・12・17・25・26日)	
3月	(休館日：2・9・16・21・23・30日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

平成31年度春季企画展

生涯250年記念 杉田玄白門人 小林令助



小林令助に宛てた杉田玄白の書簡(小林家資料)

会期：3月9日(土) ~ 6月23日(日)

・ ・ ・ 刊行物のお知らせ ・ ・ ・

■ 洋学研究誌『一滴』第26号を刊行します

目次

- 点字以前
18-19世紀の日本における盲人の身体と文字表記技術の交差
… 木下知威
 - 『泰西国法論』稿本他にみる西洋法認識の東洋的前提
— 司法・治道・仁政 —
… 山口亮介
 - 安積良斉『洋外紀略』(漢文)の蘭・和・漢原本
— ヒュプナーの蘭書、箕作省吾の蘭書和解、漢籍『平夷策』他 —
… 野村正雄
 - 平成29年度企画展報告
箕作家の人々 — 秋坪の4人の息子たち —
和時計 — 西洋の技、日本の心 —
絵画史料に見る江戸の洋楽事始
日本の化学の夜明けと津山の洋学者
 - 南蛮通詞からオランダ通詞へと転身したころの、
西吉兵衛蘇安の職務
… 土井康弘
- 3月末刊行 全204頁 500円

ご利用案内

■ 開館時間 / 9:00~17:00
(入館は16:30まで)

■ 休館日 / 月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・年末年始(12月29日~1月3日)

■ 入館料 /	一般	高校生・大学生
	300円 (240円)	200円 (160円)

※ () 内は30名以上の団体料金です。
※ 小学生・中学生は無料です。

 **津山洋学資料館**
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



● 交通のご案内

- JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分